

選手に信頼される審判を心掛けましょう

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟 審判委員会

1. 競技規則及び審判員規則をよく理解し、審判運営内容に従い適切に対応する。

1-1.大会においては、コート主任、審判補助員と連携を図る。

2. マッチが円滑で明朗に進行するよう努める。

2-1.アンパイヤーの毅然とした態度や適切な判定が進行に大きな影響を与える。

2-2.マッチ終了後は選手を待たせず直ちに審判台から降り、マッチ開始の位置と同じ位置に整列する。

採点票（スコアシート）は挨拶終了後整理する。

2-3.不測の事態が生じ判断に困る際は、早期にコート主任もしくは審判責任者に伝え、アドバイスのもと選手を待たせること無く事態を終わらせる。

3. コールは大きな声で正確に、且つ時期も適切にする。

3-1.選手はもちろん、観客にも聞き取れるような大きな声でコールする。

3-2.間違った用語は使用しない。

（ゲームオーバー・セーフ・バックアウト等々）

4. 正審を行う際は、副審及び線審の判定区分を尊重し連携をしっかりと図る。

4-1.その他の判定区分は、その審判（副審もしくは線審）の判定を確認してからコールする。

4-2.自身の判定区分において、選手の影等で判定が難しいケースは、審判間のアイコンタクトや小さなサイン等により連携を図る。

4-3.質問に対しては真摯に受け止め、適切な判断及び判定を伝える。

4-4.正審は、ネットに掛かったファーストサービスに対して「フォールト」とコールし、副審はフォールトのサインは出さない。

4-5.サービスセンターラインは正審の判定区分であり、副審はサインを出してはいけない。

4-6.副審の待機姿勢はきっちりする。

4-7.副審の移動は機微に行う。

5. 採点票（スコアシート）は正確に記入する。

5-1.開始・終了時間、サイドを選択したペア、タイムの回数、勝者サイン、警告の回数や内容等の記入。

6. それぞれのサイン・コールを適宜明確にする。

6-1.フォールトとアウトのサインは落下点に注目正視し、長め（3秒程度）にサインを出すことによって質問が出にくくなる。

6-2.「レット」に対し副審は、サインとともに必ず「コール」も行う。

6-3.「レット」に対し正審は、サーバーとレシーバーの準備ができていることを確認してから、「ツーモア or ワンモア」のコールをする。

6-4.副審は、正審のみがコールする以外の判定は、サインとともにコールも行う。

（ネットタッチ、チップ、ツーバウンズ等）

サインを行う手は、自分から見て該当者の属する側の手で行う。

7. 正審、副審ともにインのサインは原則として出さない。

8. 正審、副審のコミュニケーションをしっかりとる。